

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
 第107回放送の概要 (2016年1月23日放送)

<p>パーソナリティ</p> <p>さくら (安本久美子)</p> <p>たろう (佃 由晃)</p> <p>なか (中嶋邦弘)</p> <p>かりん (妹尾優香)</p> <p>あな (岸本幸恵)</p>		<p>ミキサー</p> <p>門ちゃん (門田成延)</p> <p>相談役</p> <p>わだかん (和田幹司)</p> <p>会計</p> <p>小山俊則</p>
--	--	---

(CM) 神戸を代表する本格中華料理の名店、神仙閣神戸店は、昭和9年の創業から今もなお、神戸の地で愛され続けており、繊細な味わいと中華の伝統スタイルを継承しながら、華やかな北京料理を提供させていただいています。

神仙閣神戸店で、同窓会、披露宴は勿論、クラス会、祝勝会などの会合に是非ご利用ください。本日は神仙閣 神戸店様、(電話050-5789-6080)のご協力を頂きました。

(CM) 神戸で乗って一番楽しいタクシーそれはペリーヌタクシーです。優しさと安全・安心を乗せて走ります。観光・ゼミ・研修・福祉輸送等乗れば心温まり、思わず笑みが浮かぶ、心を結び、出会いを作るタクシーです。本日は誇りと信頼の良質なサービスを提供する、ペリーヌタクシー様 (電話078-521-0046)の御協力を頂きました。

1. ゲストコーナー(1) 兵庫高校未来創造コース1年生 森口岳洋さん、伊藤梨音さん、西松亜珠さん、畑圭子先生(76陽会)

森口さんは鈴蘭台中学出身、生徒会で他校との交流を行う外務を担当。伊藤さんは北神戸中学校でギターアンサンブル部に所属。西松さんは魚崎中学、男子バレー部のマネージャーをしている。

未来創造コースを選択した理由について、西松さんは自由な校風に惹かれたこと、夏休みのオープンハイスクールでコースの説明を聞き、パワーポイントのプレゼン、内容が高度であること、普通コースでは出来ないことがあると思った。自由な校風については、中学2年の担任が兵庫高校卒で学校の話をよく聞き、楽しそうに感じた。伊藤さんは塾で兵庫高校の紹介があり、塾の先生も兵庫高校卒で自由で楽しい学校と聞き、生徒の地域での活動、外国人との交流記録などを見て行きたいと思った。森口さんは中学時代卓球部の先輩が未来創造コースに在籍し、コースの楽しい話を聞き、研究活動の発表会を聞きに行った時、

プロペラの羽の枚数と落下時間の関係に興味を持ち、自分もやってみたく思った。

実際に入学すると、森口さんは中学校が厳しかったので、初めはこんなことをしてもよいのかという戸惑いがあったが、今は慣れてきた。伊藤さんは学校でお菓子を食べられたり、今では想像していたよりめっちゃ良かった。西松さんも中学の校則が厳しかったので、想像していた以上に自由で、自分で考えて行動できることがよかった。

未来創造コースは、現在の地域、日本、世界の様々の答えのない課題、問いに対して、どのように自分達が解決に向けてアプローチするかを考え、実行する活動を大事にしている。通常の授業に加え、地域活動、海外に目を向けた活動などがある。失敗しながら、もがきながら解決策を見つけていく姿勢を教員は応援している。具体的な授業としては、創造基礎の1年生は、長田区や神戸市の課題に対し、自分達が何が出来るかについて活動する。外国人留学生と交流することもある。自然科学分野の理科系の課題については、神戸大学と連携し、院生の研究内容を伺い、自分達の出来ることを研究する取り組みをしている。地域の人と話をするため、まず名刺を作り、名刺交換から話を始めた。地域に出かけるフィールドワークでは、訪問先を自分達で見つけることもするので、何が出てくるかわからない楽しさと心配があるが、先生が手を出すことは控え、見守ることを大切にしている。取り組んだ結果は行政や地域の方も出席する発表会で報告している。

前期の社会科学の活動は、一応終わっているが後期に課外活動として継続して活動している。地域の課題に関する活動は、活動が終わっても結果をまとめる必要があり、作業は家に帰ってから行うか、部活を休み学校に残って作業をしている。英語で報告書を作成し、英語のパワーポイントで発表もしているが、これはRRE (Reserch & Report in English) という特別授業で行っている。

2. ミュージック：いきる（歌：石田裕之）

作詞：永田照幸 作曲：石田裕之

お送りした曲はアルバム「被災の語り歌」の一つで、歌手の石田裕之さん（86 陽会）は、兵庫県のご当地ソングなど地域密着のシンガーソングライターです。石田さんは、東北や他の災害被災地をたびたび訪問し、支援活動をされています。



3. ゲストコーナ（2）

（1）社会科学分野のグループ研究の取り組み

森口さんの5班は、神戸市が「食都KOBÉ2020」プロジェクトの先駆けとして地産地消を進めている事を知り、テーマは「EATE LOCAL KOBE」として、地産地消の促進に関係する取り組みをすることとし、農家やレストランを訪問し話を伺った。家が農家をしている班員の推薦で「プチヴェール」という野菜を主に研究を進めることにした。プチヴェールは芽キャベツとケールの交配で日本で生まれた野菜で、芽キャベツやケールより栄養価が高く、メロンに匹敵するほど糖度が高い。生産と消費の両面から考えるということで、生産面ではネッ

トで調べて、プランターで苗からプチヴェールの栽培をした。しかし対策をしたが虫にたべられてしまい、栽培は失敗した。消費の面ではプチヴェール他のサラダを提供するレストランで試食した。一番おいしいと感じたのは、スイスチャードであった。

以上の結果を踏まえ、地産地消の取り組みを進める上で流通面での課題を知るため、農家に出向き販売経路などについて伺った。その農家は畑脇に販売所を設置したり、道の駅に出店したり、レストランに納品していた。今後は3月の高校生鉄人化まつりで、活動するブースを設け、自分達で野菜販売をしたい。



プチヴェール（増田採種場HP）

伊藤さん、西松さんの6班のテーマは、「取り戻せ！！～笑顔が集まる商店街～」に取り組んだ。長田神社前商店街を活性化しようという目的で、商店街の組合長さんから、商店街には高齢者は多いが若者は少ないので、若者を呼び込みたいという話を伺い、若者に受けそうなお菓子を作る提案をしたが難しいということになり、商店街をPRする動画を作ることにした。その時長田区役所の「ええやんながた動画コンテスト」の募集があり応募し、最優秀賞を受賞した。動画をSNSに投稿し、拡散してもらうことで長田神社前商店街のPRに貢献出来たらと思った。



作成した動画のコンセプトは高校生の放課後で、学校帰りに高校生が商店街で食べ歩きをすることをテーマにしている。動画では、はらだのパン、大西餅店、ながたやのコロッケ、加島の卵焼きの4店を紹介している。撮影の苦労は、おいしいだけの表現ではインパクトがないので、店ごとにどのような表現にするか、台詞、動き、リアクションを工夫した。動画はコンテストの規定で1分間に制限されている。動画を見たクラスの生徒は、出演者の面白い反応がいい、商店街の人は一体感が良い、区役所の人は昔の若い自分を思い出したなどの感想を言ってもらえた。

長田公式 Youtube Channel

<https://www.youtube.com/channel/UCByjdl7nevsmsttRpGMyCgA/>

班活動をすることで良かった事、苦労した事は、動画の撮影、編集は大変だったが班が一体化したように思えた事、地元の方との交流はスムーズに出来たが、それは地域の方が高校生を暖かく見守り、協力してくれたからと思っている。プチヴェールの栽培については、防虫ネットなどで虫食いの対策をしたが効果がなかったことが悔やまれた。美味しい料理が食べれたことが良かった。人脈が全くないことには苦労した。

(2) 高校生鉄人化まつり

これは高校生が主体になって作りあげるまつりで、文化部の発表の場としても使われており、祭の実行委員会（森口さんが委員長）も高校生のみで構成されている。今年のテーマは「♥&・・・」（「あいあん」と読む）で、♥（ハート）の愛は、皆がこのテーマを掲げ、・・・は個人個人のテーマを達成してもらうことを表している。また鉄人のアイアンマンにかけている。今年は3月21日（月）に開催する。出し物で決まっているのは、従来より行っている東北被災地である石巻焼そばである。参加予定の学校は長田区内の7～8校を予定している。

4. こぼれた話 こぼれなかった話：高校で「近現代史」が必修科目に

(1) 高校では世界史が必修科目で日本史が選択科目だということを知っていますか。尼崎の高校で講演した時、日本史は選択なので我が国の歴史を勉強しているのは全員ではない、あまり知らない生徒たちが結構いることを知り、これは問題だと思いました。

(2) 国際化社会の到来が広く言われるようになっていた25年前の1989年から世界史が必修科目になり、日本史は選択です。ところが、世界史は守備範囲が広く、どうしても総花的になって事実の羅列で終わっていました。ただ記憶するだけに。また、世界史が受験対策では継子（ままこ）扱いになって、身が入らなくなっています。おまけに、世界史も日本史も古代から授業が始まるので、学年末では近世・現代の時間が取れなくなっているのは私たちの頃と同じです。

(3) ところが、最近の国際社会では、特にこの近世・現代の歴史を起因とする問題がほとんどで、その辺りの事情を知らない若者日本人が多くを占めるようになっていきます。

自分の国の歴史や伝統文化を知ることが、身近なところでは郷土愛、ひいては日本を愛することに繋がるものなんです。自分の国のことをしらないで、世界のことを知っても無意味なことは分りますね。日本史と世界史の相互作用を学習の中心に置くことで、現代に繋がる近現代史への理解が広がることで期待されます。現在の社会・生活に直結している近現代を、日本史と世界史とを統合した教科にと、「歴史総合」科目としてやってはどうかとなりました。

(4) そもそも、歴史を学ぶということは、ただ史実・事件を網羅的に記憶して、その詳細を競う歴史教育はナンセンスだと、ずっと思っていました。歴史はすべて物語、ストーリーがあって、原因と結果もあり、そこに反省とか改善とか未来への政策が検討されるべきものです。

(5) やっと、本来の歴史教育に近づけるものと期待しています。でも、これらは、次の学習指導要領を纏める作業に載せられますので、来年度2016年度中に中教審の答申を受けて、内容告知や教科書作成など準備があって、2020年（平成32年）以降に、高校はもちろん、小中学校も含めて全面実施に入ることになるでしょう。

(6) この歴史総合科目のほかにも、多くの現代社会の課題や要請に対応する新科目創設など改定が盛り込まれています。ちなみに、環境や防災など地球規模の課題に対する「地理総合」、社会参画の力を育てる「公共」を新設必修に、国語では現在選択の「古典」への関心育成、英語では聞く・読む・話す・書くの4技能言語活動やスピーチなど発信能力を高める、数学・理科では双方の知識・技能を活用して問題解決する「数理探求」、情報ではコンピュータで問題解決や情報活用による科学的考え方を必修に、とか、いろいろ検討されています。

これからの高校教育も、受験対策志向ではなく、社会に出てマネジメントできる人材を輩出すること、社会もこれからの若者たちに求めたいものだと思います。

